第 19 回かめのり賞 活動報告書

1. かめのり賞受賞回

第 19 回かめのり大賞　人材育成部門

2. 団体名

認定特定非営利活動法人 e-Education（代表理事　三輪 開人）

3. 活動目的

e-Education は「最高の教育を世界の果てまで」「人生に誇りを、社会には想いやりを」をミッション・ビジョンに、2010 年からバングラデシュをはじめとする途上国で、映像授業を活用して教育格差の解消に取り組んできました。これまで 15 カ国、5 万人以上の中高生に学びを届けています。

2024 年からは日本国内でも活動を開始し、海外にルーツを持つ子どもたちへの学習支援に取り組んでいます。途上国で育った教師が、子どもたちの母語で算数をオンラインで教える、いわば「国際協力の逆転」です。アジアで培った人材と経験を日本の子どもたちの学びに生かし、言葉の壁を越えて一人ひとりが自分の可能性を広げられる社会を目指しています。

私たちが大切にしているのは、支援する側とされる側に分かれるのではなく、現地の人たちと「ともに」取り組むことです。創業の地バングラデシュでは、映像授業を通じてダッカ大学への合格者が生まれました。日本国内での取り組みも、この考え方の延長線上にあります。

4. 活動報告

このたびは第 19 回かめのり大賞という栄誉ある賞をいただき、心より感謝申し上げます。かめのり財団の皆さまをはじめ、選考に携わってくださった皆さま、日頃から活動を支えてくださっている皆さまに、あらためて御礼申し上げます。この受賞は、日本とアジアをつなぐ私たちの取り組みを続けていくうえで、チーム一同の大きな励みとなっています。以下、受賞後の活動についてご報告いたします。

① 活動奨励金の活用方法

いただいた活動奨励金は、日本国内の海外にルーツを持つ子どもたちが、それぞれの状況に応じて学べる環境の整備に活用しました。主に、オンライン学習を支えるシステムの開発・改修に充てるとともに、フィリピンの講師による学習支援や教材開発など、Manaful の運営にも活用しました。

- 充当した期間：2026 年 1 月〜2026 年 9 月
- 主な費用と金額：100 万円は全額を活用しました
    - 学習システムの開発・改修：50 万円

- 講師による学習支援：30 万円
- 教材開発などの運営：20 万円

② かめのり賞受賞後の事業活動の内容・功績

2026 年 10 月 2 日時点で、静岡県掛川市内の小学校 3 校・中学校 1 校に通う約 20 名の子どもたちが、Manaful のオンライン授業を受講しています。

2026 年の夏休みには、36 単元分の教材、理解度を測るアセスメント、講師が毎回の授業を記録する授業報告フォームなどを導入しました。これにより、学習支援の内容と運用の両面を改善しています。

9 月からは、ネパールの現地職員も授業を担当しています。アジアで培った人材と経験が、日本の子どもたちの学びを支える取り組みが形になり始めています。

2026 年 10 月には、新たに作成したサンプル教材をフィリピンの講師が実際の授業で試し、授業の流れや説明のわかりやすさ、分量について意見をもらいながら教材を改善しました。また、Manaful のアプリはバングラデシュの現地パートナーである BacBon Limited とともに開発しています。日本、フィリピン、ネパール、バングラデシュの 4 カ国のメンバーが一つの事業に関わり、ともに授業をつくる体制が整いつつあります。

③ 現在（または今後）計画している事業

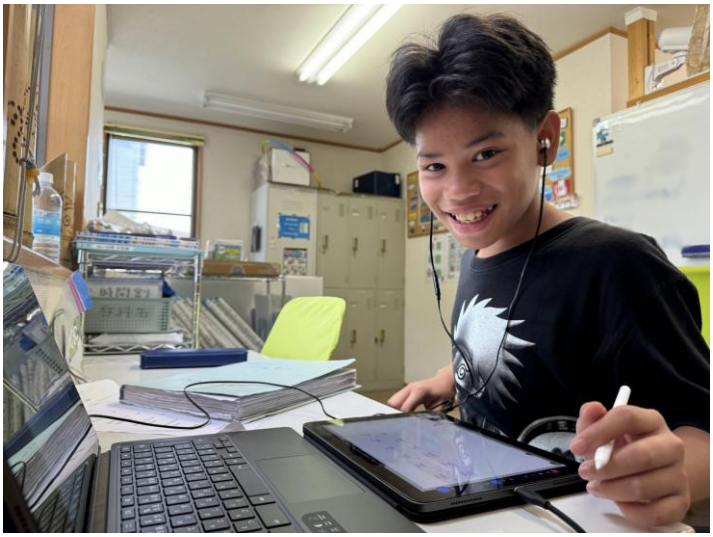
今後は、Manaful の教材とカリキュラム、学習状況の把握や進捗管理の仕組みをさらに改善し、子ども一人ひとりの理解度に合った支援を充実させます。

学校・講師・児童の声を反映しながら、多言語での学習支援と、地域の関係者との協働を進めていきます。掛川市での実践を土台に、全国の自治体へこの仕組みを届けることが目標です。

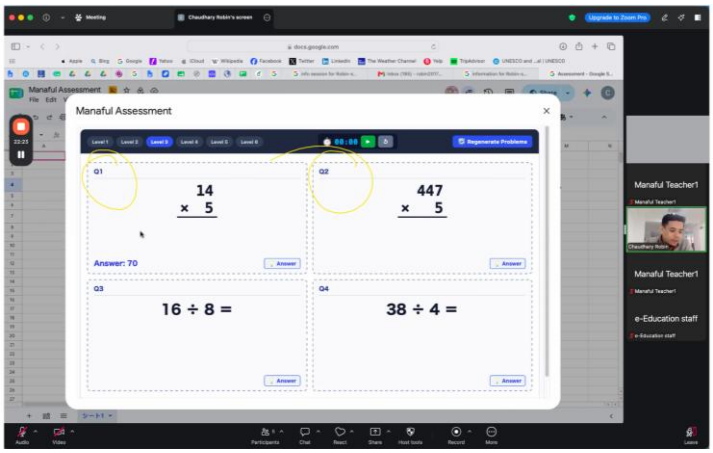
途上国の教師が日本の子どもたちに教える「国際協力の逆転」を通じて、日本とアジアの若い世代が互いに学び合う関係を育てていきます。

あらためて、かめのり財団の皆さまのご支援に心より感謝申し上げます。いただいた賞に恥じぬよう、これからも子どもたち一人ひとりの可能性を信じ、日本とアジアの若い世代をつなぐ活動に取り組んでまいります。引き続きのご指導とご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

5. 写真



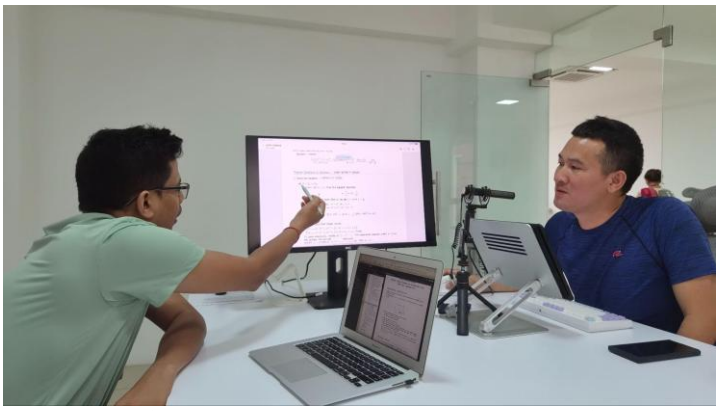
授業を受ける、日本に住む生徒



ネパール語で授業をする様子



Manaful でビサヤ語の授業を担当しているフィリピンの講師たち



Manaful でネパール語の授業を担当しているネパールチーム（打ち合わせ内容は Manaful とは別のもの）